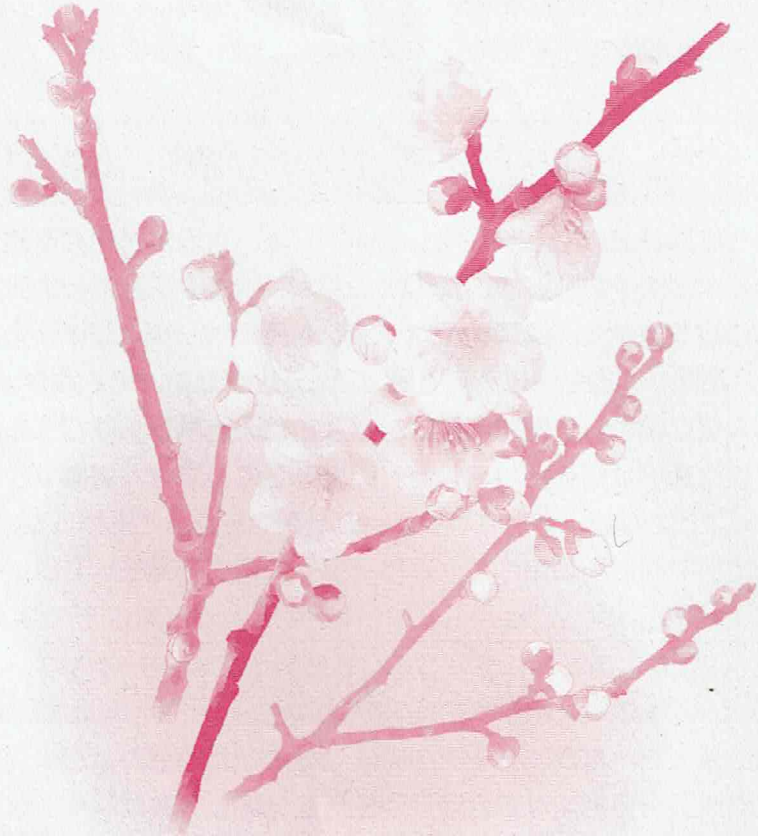


それいゆ

いなぎの女性情報誌



内 容

- いなぎの男性(ひと)
～稲城市立保育園の保育士さん～
- 「稲城市赤十字奉仕団」を紹介します
- 男女平等推進セミナーⅠ
「パパぢから☆仕事も子育ても楽しもう!」実施報告
- 男女平等推進セミナーⅡ
「災害と女性～震災から見えてきた課題～」実施報告
- 男女平等推進センターのご案内

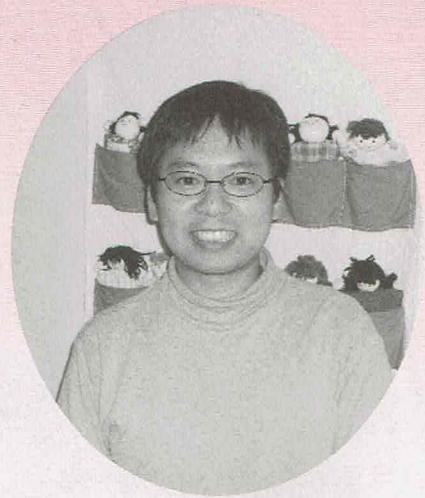
vol.23

2011

稲 城 市

いなぎの男性(ひと)

稲城市立保育園の保育士さん



保育士は平成11年の児童福祉法の改正によって、従来まで「保母」と呼ばれていたものが男女共に「保育士」という名称に統一されました。それまでは、男性保育士は「保父」と呼ばれていましたが正式名称ではなく、俗称でした。

保育士といえば女性というイメージが強く、現実的に女性が多いです。しかし、近年男性保育士も少しずつ増えてきているようです。稲城市内の公立保育園（第二、第三、第五）にも男性保育士がいます。今回は第二保育園の竹内裕樹さんにお話を伺いました。

保育士になることを選んだきっかけや動機をお聞かせください。

大学では、保育士とは関係ないことを勉強していました。大学生時代に時間があつたので、夏休みをどのように過ごそうかと考えていたところ、友人から「ボランティアをやってみたら」と助言を受けました。市の広報に“保育園のボランティア募集”という記事を見つけ、すぐに申し込みました。実際にやってみるととても楽しくて、期間終了後も頼み込んで保育園に伺いました。それがきっかけでした。

就職する際も子ども達に関わる塾の講師になりました。仕事をしながらも、保育士の資格だけでも取ろうと思い、専門学校に通い資格を取りました。結婚をして、妻が保育園で仕事をしていたため、保育園の話をいろいろと聞くことになり、本当にやりたいことをやらないで終わっていいのかなと思い始めました。保育士の仕事を探していた時に稲城市のホームページで保育士を募集しているのを見つけて応募しました。

保育士になる前と今でイメージが変わったということがありますか？

すごく難しいと思いました。ボランティアの時は遊ぶことが中心だったのですが、やはり「職業」となると、その子の発達や成長を見据えながら遊びや生活を保障してあげなくてはなりません。遊びの計画をたてたり、意図をもって遊びを提供したり、どこにいても常に子どもが何人ちゃんというか安全確認をしたり、目の前の子ども達と遊んでいても、どこかでトラブルは起きていないか等アンテナを張り続けていなくてはいけないので、責任としてはとても重い仕事だと感じました。

保育士として仕事をする上で、男性でよかったことや困ったことなどありますか？

困ったことは、保育園は女性が圧倒的に多いので、男性がいることに違和感を持つお子さんもいますが、反対に男の子の遊びに共感してあげることができるというメリットも感じています。また、保育園では力を必要とすることも多く、良かったかなと思っています。

園長先生からは、女性ばかりの職場だから防犯上も心強いと言っていました。

普段は気にせず仕事をしていますが、着替えの時とかは性別が違うと感じます（笑）

トイレも共同なので気を使います。仕事上では、まわりの職員からは男だから女だからということはなく一人の個人としてみてくれていますのでありがたいです。

これからの夢、目標はありますか？

保育士としてはまだまだ駆け出しなので、これからも勉強したり、ベテランの先生方からいろいろなことを吸収していきたいです。そして、子どもからも保護者の方からも「竹内先生でよかったね」と安心される、喜ばれる保育士になりたいです。

最後に保育士になりたいという人へのメッセージをお願いいたします。

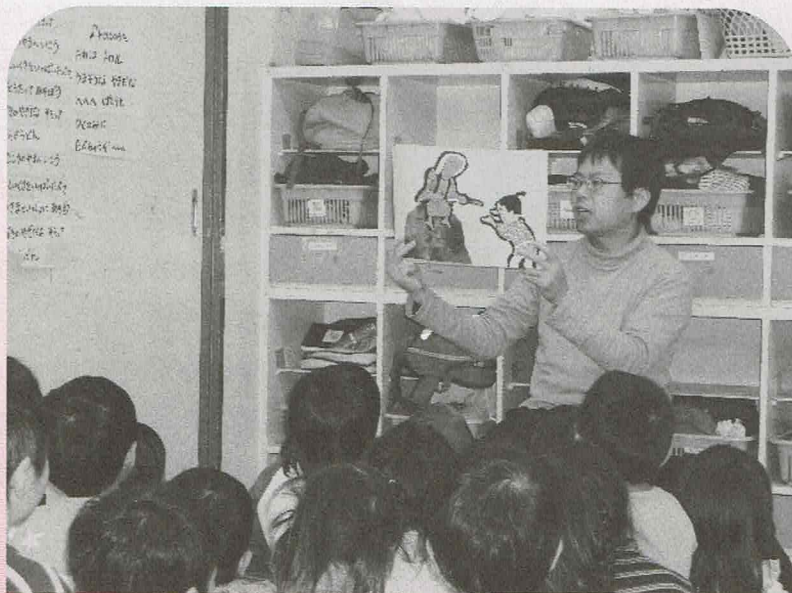
子どもと一緒に自分も成長できる職場です。子どもの成長がみえる職場なので、今までできなかったことができるようになった時、子ども本人も嬉しいでしょうが私たち保育士も嬉しいです。それを保護者に伝えて喜びを共有できるのも、また嬉しいです。保育士を目指している方は頑張ってください。そしてこの喜びを感じてほしいです。

園長先生から

仕事上では、男性女性と気にしたことはありません。休憩の時などは女性ばかりなので遠慮しているかなと感じることがありますが、竹内先生は、とてもまじめに仕事に取り組んでいます。いつも積極的に挨拶や声かけをしているので子どもたちからも保護者からも信頼を得て仕事をしています。これからまだまだ勉強を重ねていく段階なので、どんどんいろいろなことを学んでほしいです。

結びに

保育園に男性保育士がいるケースは、まだまだ少ないです。しかし、男性保育士がいることで、子どものうちから子育てには男性も関わると自然に受け入れることができるのではないのでしょうか。いろいろな場面に女性も男性も参画できる社会になることを願います。竹内先生、これからも頑張ってください。取材にご協力いただきありがとうございました。



「稲城市赤十字奉仕団」をご紹介します

白地に赤十字、皆さんもどこかで見たことがあると思います。日本赤十字社を含む国際赤十字の標章です。今回は、結成25年を迎え地域に根ざしたボランティア活動をしている「稲城市赤十字奉仕団」を紹介します。

取材をしたのは、12月の第3木曜日、裁縫奉仕活動の日でした。幼児用パジャマなど市立病院からの要望にあわせていろいろな製品を制作しています。皆さん楽しそうにおしゃべりしながら、ミシンやアイロンかけなどの作業をされていました。委員長の中西さんにお話を伺いました。

活動しているのはどのような人たちで、日頃どのような活動をしているか教えてください。

人の役に立つことに喜びを感じ、明るく前向きな人が多いです。現在団員は56人です。活動内容は、献血の手伝い、赤十字の活動を支える資金の募集や救急法講習、炊き出し訓練、防災訓練、稲城市立病院の裁縫奉仕など色々です。



[献血奉仕]

稲城市立病院の裁縫奉仕について詳しく教えてください。



[病院の裁縫奉仕]

平成11年から市立病院での裁縫奉仕を始めました。看護師さんから「こんな物があるといいな」という要望を聞き形にします。多種多様な依頼に応えながら、使う人の身になって自分が身につけるつもりで、これまで80種類3,500点の製品を作りました。作ったあとも看護師さんに使い勝手を聞きながら、さらに改良を加えてより良い製品になるよう工夫を重ねています。(木村前委員長)

毎月第2・3・4木曜日、13時から16時まで城山体験学習館（工房室）で活動しています。興味のある方は是非見に来てください。

活動をしている皆さんへのインタビュー。

- ・私は活動して12年目になります。楽しくなければ続きません。おしゃべりも楽しいし、製品ができあがっていくのも楽しい。
- ・ボランティアは初めてです。時間ができたので参加しました。
- ・人のためって言うよりは自分のためにやっています。それで人の役に立っているのですから、こんなに嬉しいことはありません。

これからの目標などはありますか？

災害救護や救急法の知識や技術がある人がより多くなるよう団員を増やしていきたいです。

「それいゆ」を読んでいる方へのメッセージをお願いいたします。

奉仕団では、災害救護や救急法、健康支援などの様々な講習があり自然と必要な知識や技術が身につきます。また、災害時だけでなく、家族や地域の人々の役に立てることができます。

活動は、できる時にできる人ができる事を無理なく。「自分にも何かできるかも」と思った方はお気軽にお問い合わせ下さい。団員はいつでも募集しています。

赤十字奉仕団事務局〈稲城市福祉部生活福祉課
042-378-2111 (内線213)〉



〔裁縫奉仕を終えて〕

結びに

皆さん、本当に明るい方々で楽しそうに活動されていました。自然に無理なくできることをやっているといった印象を受けました。取材にご協力いただきありがとうございました。

まめ知識

・カバンの中にビニール袋1枚

ビニール袋は小さくたためてかさばらないので、是非1枚はカバンに入れておかれるとよいと思います。さっと空気を入れればしばらく酸素が確保できるし、けが人の手当てをするとき手袋代わりに使えば血液感染を防ぐことができます。気分が悪いときのエチケット袋としても使えます。

実施しました

男女平等推進セミナー

市では、男女がお互いの生き方を尊重し合える社会の実現に向けて、毎年男女平等推進セミナーを開催しています。今年も10月と11月に地域振興プラザにおいて実施しました。当日の様子と参加者の感想を一部紹介します。

詳しい内容につきましては、報告書を作成して事務所に用意していますので、協働推進課までお問い合わせください。

男女平等推進セミナーⅠ

「パパちから☆仕事も子育ても楽しもう！」

実施日時：平成23年10月30日(日) 13時30分から16時00分

お二人のお子さんをお持ちで、お一人目では1年間の育休を取得し、お二人目では2週間の育休取得と半日の代替勤務を行われた柳田さん。お二人のお子さんをお持ちで、それぞれ2ヶ月の育休を取得された奥平さん。NPO法人ファザーリング・ジャパンより、育休経験者のパパお二人を招き、仕事との両立、「パパの楽しみ方の極意」等の体験談を話していただき、後半ではワールドカフェ形式のワークショップを行いました。

当日参加者の声

男性にしかできない育児もあり参考になった。皆さんの育児に関する話が聞けて参考になった。



育休体験者の話が聞けてよかった。稲城でも経験者が増えるといいと思いました。

講師の方のお話はとても面白く、あっという間に時間が過ぎました。パパのご意見、いろいろ聞けて参加して本当によかったと思います。



お話が大変面白かった。「育休を取れ！」という方針の会社で働いていらっしゃるのがうらやましかった。

どの家庭も試行錯誤しながらがんばっていることが分かり安心しました。

このように人と人が関わるのは良いことですね。

もっとワークショップの時間が欲しかったです。勉強になりました。

男性が、結構参加してくれて良かったです。

男女平等推進セミナーⅡ

「災害と女性～震災から見えてきた課題～」

実施日時：平成23年11月29日(火) 10時00分から12時00分

自然災害というのは発生を抑えることができません。いかに被害の拡大を最小限に抑えていくかということが大事です。阪神・淡路大震災の復興ボランティア活動や三宅島噴火災害支援に携わられた、浅野幸子さん（全国地域婦人団体連絡協議会事務局・研究員）を招き、被災地の状況や、震災が起こるときに備えて、今できることについて語っていただきました。

当日参加者の声

幸い、大きな災害にまだあったことがないのですが、今回のセミナーで、テレビの報道では知りえなかった、もっと被害にあわれた方の内部事情を知ることができました。他人事ではなく、日々の生活からの意識がとても必要だと感じました。

女性の側からみた災害は大変参考になりました。備えをきっちりしていきたいと思います。

盛り沢山の内容で期待以上でした。自主防災組織づくりをしたことがありますが、実践的ではなく、見直しが必要だと思いました。スフィアプロジェクトにも興味をもちました。

女性が防災のシステムづくりのプロセスにも加わるような体制に行政(国)は本気で取り組むべきだと感じた。



このようなセミナー（具体的に“災害”“防災”だけでなく、女性という視点を持ったセミナー）を開催するのは非常に意味のあることだと思う。

震災が起こった時、自分ができることのイメージができた。

沢山のご経験からの講義内容で大変濃いものでした。全く知らないこともありましたが、減災をしっかりと念頭において、まず自助をしっかりと行えるようにしていきたい。広範囲に至ることが沢山ありますが、少しでも周知していく必要があると思います。

ご利用ください。男女平等推進センター（地域振興プラザ1階）

施設紹介

* 開館時間は午前9時から午後10時。
休館日は第2火曜日と年末年始です。

●施設の詳細については、稲城市地域振興プラザ1階の協働推進課へお問い合わせください。

打ち合せコーナー

10名程度の話し合いに
利用できます。

キッズルーム

活動時の一時保育や授乳
にも利用できます。

印刷室

印刷機、コピー機、拡大機、
紙折機があります。(有料)

相談室(いなぎ女性の悩み相談)

さまざまな悩みや困難について専門の相
談員が親身になって対応します。
(男性も水曜日は相談可)
◆毎月第1・3水曜日、第4土曜日(要予約)

情報資料コーナー

情報検索用のインターネットパソコンの
利用や、書籍・行政資料・啓発ビデオなど
の閲覧及び貸出しができます。
(貸出しは2冊を2週間まで)

お薦め図書 のご紹介



★「女40歳からの「不調」を感じたら読む本」

著者 木村容子（東京女子医科大学東洋医学研究所副所長）

40歳からの不調は、女性ホルモンの減少に慣れようとするカラダの正常な反応です。その変化に合わせる考え方・生活スタイルを見つければカラダもココロも楽に過ごせます。ポジティブに年齢を重ねられるヒントが書かれている一冊です。



★「パパルール あなたの家族を101倍ハッピーにする本」

著者 安藤哲也（NPO法人ファザーリング・ジャパン代表理事）
小崎恭弘（神戸常盤大学短期大学部幼児教育学科准教授）

男性の育児参加率が高まっています。しかし義務感が先行しているパパもいるのでは？ 育児を楽しみ、家族がハッピーになるだけでなく自分自身もハッピーになれるヒントが書かれている一冊です。

ご利用
お待ちしております



それいゆ Vol.23

平成24年2月発行

編集発行／稲城市企画部協働推進課女性青少年係
稲城市東長沼2112-1（地域振興プラザ内）
電話 042-378-2112

誌名の『それいゆ』は、雑誌「青鞥」の創刊の辞として有名な「元始、女性は太陽であった」の太陽の意味です。やさしい響きのフランス語をひらがなに置き換えました。市民からの公募で命名された愛称です。『それいゆ』の発行は男女平等推進いなぎプランに基づく事業です。